

e-mail の変遷

e-mail の利用方法は、インターネットの発展とともに大きく変化してきました。その進化の過程を以下にまとめます。

1. インターネット初期の段階（POP）

- 初期の e-mail 利用では、デスクトップ PC に専用のメールソフトをインストールし、メールサーバーに POP（Post Office Protocol）設定を行う必要がありました。
- この方法では、受信したメールは PC にダウンロードされ、送受信メールとも **当該 PC でのみ利用可能** でした。他のデバイスからアクセスすることはできず、非常に限定的な使い方でした。

（メールソフトを使用する、受信メールのみ）

2. POP の進化

- 次の段階では、POP プロトコルが改良され、メールが PC にダウンロードされた後もサーバー上に残る設定が可能になりました。
- この改良により、ダウンロードした **PC 以外のデバイスからもサーバー上の受信メールを確認できる** ようになり、利便性が向上しました。

(メールソフトを使用する、受信メールのみ。
クラウドの受信メールサーバー)

3. IMAP の登場

- その後、IMAP (Internet Message Access Protocol) が登場しました。
- IMAP では、**デバイスから直接メールサーバーにアクセス**し、サーバー上でメールを操作できます。
- これにより、送信済みメールやフォルダ分けしたメールも複数のデバイスから確認できるようになりました。
- 操作結果はすべてサーバー上に反映されるため、一貫性が保たれる点が大きなメリットです。

(メールソフトを使用、送受信メール。プロバイダーサーバー)

4. Web メールサービスの普及

- 次に、**ブラウザを利用**して直接メールを送受信できる Web メールサービス（例: プロバイダーメール）が普及しました。
- この方法では専用メールソフトをインストールする必要がなくなり、インターネット接続さえあればどこからでもアクセス可能となりました。
- メール機能に特化、その他機能はメールソフトに比べて劣る

（**メールソフト不要**、送受信メール。クラウドのサーバー）

5. クラウドベースのメールサービス

- 現在では、Gmail や Yahooメール といったクラウドベースのメールサービスが主流となっています。
- これらは単なる **メール送受信だけでなく**、大容量ストレージ、高度な検索機能、スパムフィルタリング、カレンダー や連絡先との統合など、**多機能なプラットフォームを提供**します。
- また、スマートフォンやタブレットなどモバイルデバイスとのリアルタイム同期が可能であり、利便性がさらに向上しています。

6. 現代の e-mail 利用傾向

- 最近では、e-mail は主にビジネス用途や公式なコミュニケーション手段として利用されています。
- 一方で、個人間のカジュアルな連絡には LINE や WhatsApp といったチャットアプリや SNS メッセージ機能が主流となりつつあります。
- そのため、e-mail は重要な文書の送付や公式連絡など特定用途に特化する形で使われる傾向があります。

7.2種類のWEBメールサーバー

- メールサーバーがクラウドにあれば、複数のデバイスからメールを見ることができるが、メールサーバーに2タイプがある。
 - ① 直接メールを受信するプロバイダーのメールサーバー
 - ② Gmailのように受信メールサーバーからメールを取り込むタイプ
- 受信したメールをフォルダを作り振り分ける機能などは、
 - ① のタイプであれば、プロバイダーのサーバーの機能を使用
 - ② のタイプであれば、Gmailなどの機能を使用
- プロバイダーのサーバーの機能は、基本的にメールに関する機能に限定、Gmailなどの機能に比べ劣る。
- メールソフト（Thunderbirdなど）を使って、IMAPでメールサーバーを直接操作すると、プロバイダーのサーバー機能を補える。

複数デバイスでアクセスするクラウド上のサーバー（2種類）

複数デバイスで同じメールを見るには、メールがクラウド上に存在することが必須です。クラウド上のメールサーバーには次に示す2タイプがあります。

タイプ	説明	主な特徴	フォルダ振り分け等の機能
(1) 直接メールを受信するプロバイダーのメールサーバー	プロバイダー（例：OCN、So-netなど）が提供するメールサーバーを直接利用	メールはプロバイダーのサーバーに保存。IMAP利用で複数デバイスからアクセス可能	プロバイダー側の機能に依存し、Gmail等に比べて機能が限定的 [1]
(2) Gmail等が受信メールサーバーからメールを取り込むタイプ	Gmailなどが他のメールサーバーからメールを取得し、自身のクラウドに保存	Gmailの豊富な機能（ラベル、振り分け、検索等）を利用可能。複数デバイスで同期	Gmail等のクラウドサービスの機能をフル活用できる [1]

メールソフト（例：Thunderbird）による補完

- IMAP対応のメールソフトを使えば、プロバイダーのサーバーの機能が足りない場合でも、ローカルで振り分けや管理が可能です。
- IMAPであればローカルで操作した結果は、プロバイダーのサーバーに反映される。